埼玉県防災士会研修資料

1-6
各種防災訓練の企画・立案・指導要領

D案

2023.4

K1

防災訓練は何故必要か？

■災害の多発と激甚化

地震・風水害・雪害・噴火・パンデミック等、多様な災害の発生頻度が上昇し、複合化している。

■防災・減災には共助が不可欠

警察・消防・自衛隊等公助組織は訓練を通じ、有事の出動に備えている。

専門組織でない自治会・管理組合・事業所に於いても訓練の継続と反復を通じ、コミュニティを形成し共助体制を構築する。

■防災計画・防災マニュアルの検証

防災計画や防災マニュアルが絵に描いた餅とならないよう定期的な防災訓練を行い、有効に機能するかを検証し、実効性のある内容に改善する。

訓練の対象となる組織の特性

《組織の属性や特性を把握する》

【自治会・町会】

自主防災組織を結成し防災計画を定めている。

築年数の異なる建物やハザード（塀・崖・水路・樹林）・消火栓位置の把握。

【管理組合】

自主防災組織以外に理事会・委員会で防災計画やマニュアルを立案。

多棟型・タワー型・複合用途型等規模や用途・物理的な問題の把握。

【事業所】

業種（製造業・物販業・サービス業）・規模（中小企業・大企業）により

危険物の保全、顧客や従業員の安全、データの保全、代替機能の把握。

訓練内容の設定

《どのような想定で訓練を行うか検討する》

◆災害の種類：地震・風水害・雪害・噴火等

◆シナリオ：季節・曜日・昼夜・気象条件

◆目標：何を実現したいのか

◆場所：屋内・屋外・公共施設

◆関係者：消防署・協力業者（設備業者・管理会社）

◆プログラム：図上訓練・実技訓練・実動訓練

災害の種類

《発災時に生じる問題を訓練に織り込む》

【地震】家具の転倒防止・出火時の消火・トイレの確保

【風水害】破損した建物の養生・水難者の救助

【雪害】家屋倒壊防止・孤立に伴うエネルギー、通信手段の確保

【噴火】粉塵に伴う健康維持・降雨時の泥流対策

訓練のシナリオ

《シナリオに応じた訓練内容を立案する》

◆季節：夏では熱中症・冬ではインフルエンザやロタ・ノロの感染対策

◆曜日：平日は家庭では在宅率が低い（高齢者・子供への対応）

◆昼夜：夜間では就寝中の発災・停電対応が求められる

◆気象：降雨・降雪・強風・高温・寒冷等複合条件も検討する

訓練の目的

《訓練で何を実現したいか明確にする》

◆全般に機能するか俯瞰したい。

組織が有効に発動するか検証⇒防災計画やマニュアルの改訂

◆ピンスポットでバックアップやスキルアップの向上させたい。

特定の機能や技術に磨きをかける⇒有事に実効性を発揮

◆共助に向けたコミュニティを形成したい。

普段は接点が少い⇒集団行動の機会を企画

訓練の場所

【屋外】・・・気象次第で訓練中止となる。
消火訓練・水難訓練・消火訓練・水難訓練

【屋内】・・・気象に左右されず訓練ができる。
救命救急訓練・搬送訓練・機器操作訓練・通報訓練・DIG訓練
安否確認訓練・ HUG訓練・ 炊出訓練

【公共施設】・・・事前に訓練内容・時期・人数等相談の上、許可を取る。

訓練の関係者

《関係者の属性と協力体制》

◆参加者の属性に応じたプログラム

住民・・・高齢者・乳幼児・障害者・外国人への配慮

従業員・・・支店・部署・協力業者との連携行動

生徒・・・中学生以上の場合、訓練の運営参加で有事の戦力化

◆協力者

消防署・・・防火管理者は事前に届出（機材の貸与・立会の要否）

設備業者・・・事業所の場合、防災設備の起動操作・復旧

管理組合・・・集合住宅の場合、理事会・委員会・自治会との連携

訓練の種類

目的やニーズによりピンスポット型または複合型で実施する。

《実技訓練》

消火訓練・水難訓練・救命救急訓練・搬送訓練・機器操作訓練

《実動訓練》

避難誘導訓練・安否確認訓練・炊出訓練・HUG訓練・BCP訓練

《図上訓練》

通報訓練・DIG訓練・事例研究

＜参考資料＞

・平成28年8月版：防災士教本（日本防災士機構）